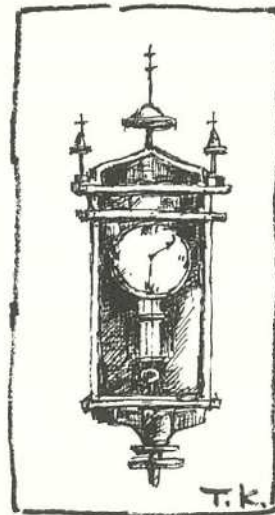


# OMNIBUS

大阪医科大学図書館報 / 大阪医科大学附属看護専門学校図書室報

C	O	N	T	E	N	T	S
図書館長再任にあたり〔清金公裕〕	—	—	—	—	—	—	2
秘すれば花〔末吉公三〕	—	—	—	—	—	—	3
富士山の見える場所〔西村保一郎〕	—	—	—	—	—	—	4
通りすがりの「ヨンダ君」〔須藤葵〕	—	—	—	—	—	—	5
本格推理小説への招待〔大西直武〕	—	—	—	—	—	—	6
図書館利用状況	—	—	—	—	—	—	7
図書館業務電算化システムの新規更新について	—	—	—	—	—	—	8
他大学図書館訪問記(4) (大阪市立大学学術情報総合センター医学部分館の巻)	—	—	—	—	—	—	9
書評「小児の腹腔鏡下手術」〔谷川允彦〕	—	—	—	—	—	—	10
学術情報センター平成10年度の動向〔宮本高行〕	—	—	—	—	—	—	11
本学教職員等著作寄贈	—	—	—	—	—	—	12
平成9年度図書館統計	—	—	—	—	—	—	13
お知らせ	—	—	—	—	—	—	14
図書館業務日誌	—	—	—	—	—	—	15
編集後記	—	—	—	—	—	—	15



## 図書館長再任にあたり

清 金 公 裕



再任の御挨拶の前に、一言御礼を申し上げます。平成7年6月1日に藤本守館長の学長就任に伴い館長に就任し、以後2年10ヶ月間、館員、運営委員はじめ多くの方々に御指導、御支援を受けながらその役目を曲がりなりに務め終えたことに対し、心より御礼を申し上げます。

さて、現在の社会情勢、医療環境の厳しいなか、本学の経営においてもその影響は大変大きく、経営状態は決して楽な状態ではないことは皆様もよく御存知のことと存じます。大学の財政基盤の確立のもとにおいて、初めて図書館としての機能を発揮出来ることですから、図書館としても現在置かれている本学の財政状態をノンビリと見過ごすことは出来ません。従って、今後さらに図書館資料の購入を含め経費の見直し、運営方針の見直しなどを行って行かねばなりません。

昨年度も御協力頂きましたが、図書館資料の購入、特に洋雑誌の購入の大幅な見直し及び本館とさわらぎ分室における図書館資料の不必要な重複を無くして行くことが急務と考えています。洋雑誌の購入費は昨年度においては図書館全体の経費の約62%（約6000万円）であり、今年度は雑誌の値上がりや円安などにより約66.5%（約6500万円）に上ると予測されます。全国の医科大学における洋雑誌の購入経費は平均4300万円とされており、本学はその約1.5倍の経費をかけていることとなります。洋雑誌購入の削減に伴い、製本費の軽減と数年後には満杯となると予測される保存書庫の確保も可能となりますので、御不満、御不便なこともあろうかと存じますが、どうか御協力頂きますようお願い申し上げます。

しかし、洋雑誌購入の削減により本学における学術研究や教育に支障を来すようなことがあってはなりませんし、また利用者の方々に大きな御負担をおかけすることにもなりかねませんので、それに代わるものとして電子メディアを通して出来るだけ多くの情報の入手が出来るシステムの設置をせねばならないと思っています。

本学において学術研究情報ネットワークや学内情報ネットワーク（学内LAN）などの情報基盤の整備が整えられて来ているとはいえ、本学の学術研究や教育を支える重要な基盤の一つとしての機能を果たして行くために図書館は今後もなお一層その機能強化や高度化を推進して行かねばなりません。ことに、図書館資料としてこれまでの図書や雑誌の他にいろいろな形態のものが増加してきたこと及び利用方法が多様化してきたことに対応出来る基盤の整備充実、利用者に対する高度なサービスの提供を行うための機能強化をはかるには、図書館のさらなる活性化が必要と思っています。それと共に、大学の国際化、生涯学習社会の進展に対して適切に対応して行くことも不可欠となっています。

これらのことを推進し、対応するためには、日々急速に発展している情報システムに対し、その方面の専門家の方々の御指導、御支援を受けながら積極的に取り組み、取り入れて行くことが大切なことと考えています。

在任期間中、学内の利用者の皆様に無理な御願いをすることがあろうかと存じますが、どうか御協力頂きますようお願い申し上げます。簡単ではありますが再任の御挨拶と致します。

（きよかね・きみひろ 皮膚科学教授）

## 秘すれば花

末吉公三

近年の医学の進歩には目を見張るものがある。私の専攻する放射線医学の領域でも医用工学の進歩とあいまって著しい進歩をとげている。百年ほど前にW.K.RöntgenによってX線が発見されて以来、X線装置やフィルムの改良、造影剤の開発等により画像診断は着実に進歩してきた。近年の画像診断における画期的な出来事はCT、MRIなどのコンピュータを駆使した断層診断装置の出現である。これらの診断装置により、人体の内部が断層像として非侵襲的に観察することが可能となった。さらにはソフトやハードウェアの進歩で、ヘリカルCTや高速MRIが出現し三次元画像による診断も日常的に行われつつある。私が大阪医科大学に在学していた20数年前には、大学附属病院に当時としては最新であったEMI社製の頭部専用CT装置が導入されていた。画質は現在のものと比較にならず、故障が多くよく検査が中断されていたことを思い出す。診断装置の進歩は現在のそれと比べてわずか20数年ではあるが隔世の感がある。画像診断の分野以外でも、新しい治療薬の開発や、臓器移植などの高度先進医療、また遺伝子工学や分子生物学の領域においても著しい発展を遂げている。特に遺伝子操作により生みだされたクローン羊の誕生は衝撃的な出来事であった。遺伝子診断や遺伝子治療はほぼ実用段階にあると聞いている。遺伝子診断により、環境や生活習慣によって変化するが、だいたい何歳くらいでどのような病気にかかるか、またどのような種類の癌にかかるのかということがある程度予想される。知ることにより病気の予防や早期発見ができるというメリットはあるが、私個人としてはそのような情報は知りたくはないと思う。知ることにより制約された人生を送るより、前向きに生きたいと思うからである。最近、癌患者への病名の告知や薬剤の副作用についての情報等の医療情報の開示がなされつつある。情報の開示はいまや世をあげての流れであり、インターネットなどの様々な通信手段の発展とあいまって今後増々加速されるであろう。しかし、社会環境や生活環境が異なる患者への医療情報の開示は画一的であってはなら



ないと思う。また医療情報の開示が患者の利益の向上につながるものでなければならない。近年の急激な医療の変革や情報過多の時代では、しばらくは医療現場で混乱が続くかもしれない。医学の進歩や医療情報の開示は患者への大きな福音をもたらしたことに違いない。しかし最近の医療は、医療技術の進歩や情報の開示がなされつつあるにもかかわらず、患者と医師との間に何らかの溝が生じるためにおこる医療訴訟の増加、さらに医療

費の高騰等の問題を生み出していることも事実である。どんなに医療が進歩しても医療の原点は患者と医師との信頼関係である。医療人たるものは患者に対しての誠意と愛情を日々忘れてはならないと思う。

話は変わるが、最近、能を観る機会を得て大槻能楽堂に行った。能は室町時代に田楽や猿楽から観阿弥により創始されたが、その子世阿弥に受け継がれ芸術的に大成されたという。室町時代から綿々と伝わる幽玄、夢幻の世界が能舞台にはあった。現在もなお世阿弥の頃に行われていた様式が大きな変化なく受け継がれているのであろう。世阿弥の著わした風姿花伝（花伝書）に、『秘すれば花』という言葉がある。この言葉の深遠な意味は私ごときの知るところではないが、最近の洪水の様に情報の溢れた時代には、時に『秘すれば花』の心を持つことも必要ではないかと考える今日この頃である。

(すえよし・こうぞう 放射線医学助教授)

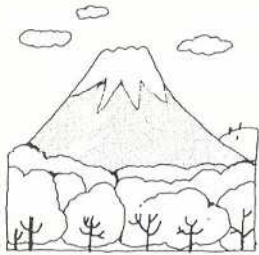
# 富士山の見える場所

西村 保一郎

建物や高架の道路などに登らないで、自然の地形のままの地面に立って富士山が眺められる場所は、東京の山手線の内側にはもう2箇所しか残っていないかもしれない。C君は私にそう語った。

私は東京に帰省するたびに、C君と酒を飲むことを楽しみにしている。今年の3月末のこと、私達は壁一面をガラス貼りにしたビヤホールの2階から、しだいに暮れてゆく神田の古書店街を見下ろしていた。

1箇所はC君や私の通った高校のすぐ近くにある荒川区西日暮里の富士見坂で、ここからは現在でも富士山の上部の全景が眺望できる。他の1箇所は私の実家から歩いて5分ほどの所にある文京区大塚の富士見坂で、現在では富士山の右側半分しか見ることができない。子どもの頃は私の家の2階からも美しい富士山が見えたのであるが、今ではだめである。山手線内に富士見坂と名の付くものが一説では18箇所あるそうだが、他の富士見坂ではもう富士山は見えない。富士見坂どころか山手線内の全ての場所を対象としても、



地面に立って富士山の見える所は、他には無いように思われるというのがC君の話の主旨である。C君は仕事の傍ら、西日暮里の富士見坂からの富士山の眺望を保存する会の事務局長をしている。その関係で、東京からの富士山をテーマとしている写真家や、都市計画関係の建築家、役人などに会って話すことがあるが、地面に立って富士山の見える他の場所を知っている人が誰もいないという。もちろん山手線内の全地域の調査はしていないので、富士の見える場所が全く無いと言い切ることはできない。という訳で、そのような場所をご存知の方がいらっしゃれば、どうぞ私にご一報下さい。

ところで、地球上のいろいろな地から眺望できる山の名前を調べあげて楽しむという趣味があるそうである。この趣味のことを書いた本として、例えば、「山岳展望の楽しみ方」(新書判、田代博著、山と溪谷社発行)がある。パノラマ写真を取り、地図を見つつ計算をして山座同定をするという、何とも素晴らしい趣味である。写真でピークが重なって、見えている山の見極めが困難であるときに、地図と計算を駆使して山名を特定していくのが、この趣味の醍醐味のひとつだそうである。

ところで、地球上のいろいろな地から眺望できる山の名前を調べあげて楽しむという趣味があるそうである。この趣味のことを書いた本として、例えば、「山岳展望の楽しみ方」(新書判、田代博著、山と溪谷社発行)がある。パノラマ写真を取り、地図を見つつ計算をして山座同定をするという、何とも素晴らしい趣味である。写真でピークが重なって、見えている山の見極めが困難であるときに、地図と計算を駆使して山名を特定していくのが、この趣味の醍醐味のひとつだそうである。

その山座同定のための計算には面白い点があるので少し説明したい。それは、地球が球体であるために、遠くにある山ほど沈み込んで小さく見えるということを考慮しないとイケないという点である。一方、大気による光の屈折の影響で遠くの山は浮き上がって見えるという事情もある。そこで地球は半径が7365Km(実際は6371Km)の球体であるとして沈み込み量を計算をすると丁度よい。これを認めると、xKm離れた所にある山の沈み込み量h(単位m)を表す式は、おおよそ $h=x^2/14.7$ になる。ピタゴラスの三平方の定理とtが小さい場合の近似式 $\sqrt{1+t} \approx 1+t/2$ から導くことができるのですが、分かりますか?この沈み込み量の計算公式によると、高さが3776mの富士山を約100Km離れた東京から見ると680mの沈み込みが起きる、すなわち、地球が平らな面であると想定して3096mの山を見るのと同じになる。また例えば、わずか14.7Km離れた所にある山でも14.7mも沈み込んでしまうというのであるから、地球とは存外小さい星であるという気になる。

さて、C君の富士山の眺望を保存する会では、富士山の3000m以上の部分の眺望を保存するために、西日暮里の富士見坂と富士山を結ぶ細長い扇状の地に建物の高さ制限を設けるように区役所に働きかけるという運動をしているのだが、その高さの計算に、上の沈み込み量の公式を富士山とビルとに当てはめて使用している。

(にしむら・やすいちろう 数学助教授)

# 通りすがりの「ヨンダ君」

須藤 葵

私は物心ついた頃からパンダが大好きである。家の中にはパンダのぬいぐるみがゴロゴロしており、それぞれに名前もついている。近頃、街にはパンダグッズが氾濫しているが、この世相は戦後の「第3次パンダブーム」であるらしい。私にとってはこの上なく嬉しいことであり、そのブームにドブプリと浸らせて頂いている（つまり、パンダグッズの数々が私の周りをとりまいている）。いずれは中国に行ってパンダと友達になる、という夢もあり現在通っている大学では、第2外国語に中国語を選択した程だ。

ある日、ふらりと散歩している道中で、本屋に掲示してある大きな広告に私の目は釘付けになった。パンダが本を読んでいるのだ。しかもプールサイドで。「ヨンダ君」という名の彼はもちろんパンダのぬいぐるみであるが、その姿は何とも愛くるしい。

しばらくその姿に心奪われた後、広告の内容に目を向けた。広告主の出版社が出版した文庫についているマークを3枚送ると「ヨンダグッズ」が当たる、というものであった。いずれのグッズも私の心を大いにそそった。思わず「本を買わねば」という衝動にかられ、本屋に飛び込んで3冊の本を買い込んでしまったのである。本を衝動買いする等、“不届者”と思われる方もいらっしゃるかもしれない。しかし、不届きな買い物は「ヨンダグッズ」の応募資格を得ただけでなく、その世界に引き込まれそうな程面白い本に巡り合うきっかけを作ることにもなったのである。

1冊はフランスの歴史を元に書かれた、少々アダルトな雰囲気を漂わせた短編集で、中には「家族愛」をテーマにした非常に考えさせられるものもあった。どの作品もルイ16世時代の美しい風景を容易に想像することができる内容で、著者は日本人であるがフランス史をよく分析されており、その巧みな描写に感嘆した。

後の2冊は、アメリカの臨床心理医が数々の殺人事件に巻き込まれる、というミステリー小説のシリーズであった。アメリカの精神障害者への治療に関する内容が随所に盛り込まれていたり、アメリカ特有の社会背景が細かく表現されており、その文化にも触れることができた。

日頃、色々な文章を目にすることはあるが、それがカタイ内容であれば見る事さえ嫌になってしまう。職業柄、難しい内容の書物を読破する必要があるが、内容が頭に半分も入らないうちから肩こりが出現する。しかし、通りすがりに出会った「ヨンダ君」は私に、楽しくて魅力的な世界に引き込む力を持った本をもたらしてくれた。何がきっかけで面白い本に巡り会うのかわからないものだ。面白い本は、生活に潤いを与えてくれる。カチカチにこった肩も少しは軟かくなってくる。今回の場合は、楽しい本をもたらしたきっかけがたまたま「ヨンダ君」であったから、リラックス度も倍増した。

もし、今までに手に取ったこともないような本を読む機会があったら、そのチャンスは是非、活かしてもらいたい。その機会に至るきっかけが何であっても、普段感じることのない世界に足を踏み入れることができるかもしれない。私が「ヨンダ君」にもたらされた本に引き込まれたように。

追記：肝心の「ヨンダグッズ」はもちろん応募したのだが、未だその姿を私の前に現さない。やっぱり・・・さみしい限りである。

(すどう・あおい 第二看護学科専任教員)



## 本格推理小説への招待

大西直武

岡嶋二人は、今は無き希代の本格推理小説家であった。今は無き、といっても亡くなったのではない。その名の通り岡嶋二人は徳山諄一、井上泉の合作筆名であり、1989年に「クラインの壺」を最後の作品として上梓した後、解散したのである。

合作の推理小説家といえばエラリー・クイーンの名が思い浮かぶが、日本の文壇においては恐らく彼らが最初でかつ唯一の作家であろう。いかなる方法をもって小説の合作が行われていたのかは不明だが、彼らは1982年に江戸川乱歩賞受賞をもって世に現れ、幾多の傑作を産み出し続けた。およそ代表作といえるものは枚挙にいとまがないが、あえて一例を挙げるのなら、「そして扉は閉ざされた」(87年12月講談社、90年12月講談社文庫)を推したい。

登場人物は毛利雄一、影山鮎看、成瀬正志、波多野千鶴の四人で、いずれも大学生である。彼らは共通の友人である三田咲子の不審な死に対してその原因を突き止めようとするところから話は始まる。

ただしお決まりの聞き込みや調査などはなく、彼らはただ一室で頭を寄せ合って思案するだけである。こういふと、よくある安楽椅子探偵ものの類かと思われるかもしれないが、少々異なる点がある。一つは調査に行こうにも彼らのいる部屋の扉は固く閉ざされており、もう一つは、推理の如何に彼らの生命がかかっているのだ。

亡くなった咲子の母、三田雅代は、娘は殺されたのだという一種偏執的確信から、彼ら四人を別々に自宅に呼び寄せ、睡眠薬を飲ませて地下の一室に閉じ込めた。部屋にあるのはダンボール箱に詰められた無数のカロリーメイトと、壁に赤いペンキで「おまえらが殺した」と殴り書かれた字。誰かが犯人としての名乗りをあげない限り、閉じ込められたまま、というわけだ。

だが、四人の誰にもまったく身に覚えはない。無実を主張しようが、力づくで脱出を試みようが効果はない。仕方なく彼らは互いの記憶だけを頼りに何とか事件の解決をみようとする。が、導き出された結末は、誰も予想し得ない恐ろしいものだった……

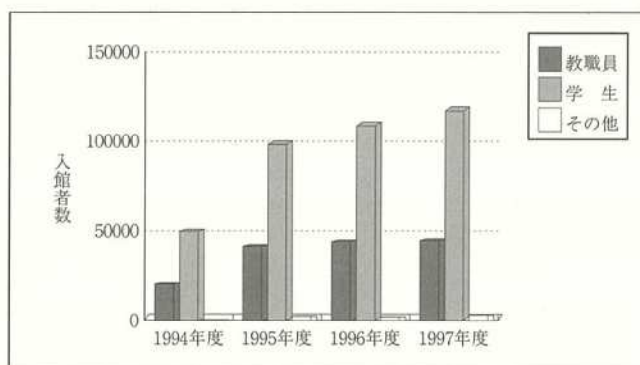
岡嶋二人の特筆すべき点は、物語と人間を卓越した筆致で描ききることと、万人が予期し得ない意外なトリックと結末を作り出せるというこの二点が両立されているところにある。そして彼の著書には、まことに俗っぽい言い方をすれば、外れがない。同じ登場人物を用いた連作が少なく、作品ごとに異なる方向性を持ちながら、どれも極めて高い完成度を誇っている。どれをとっても読者に「ああ、これぞ岡嶋二人だ」と満足させるものがあるのだ。

過去に推理小説を愛読してきた人は数多いだろうが、岡嶋二人に会わずしてその手を止めた方もいるだろう。それは大いなる不運であるが、同時に得がたい幸福でもある。なぜならまだ人生において、彼らの著書に触れ、その巧みな筆致と絶妙な展開、そしてその驚くべき結末すべてに心躍らせる楽しみが残されているのだから。

(おおにし・なおたけ 4回生)

# 図書館利用状況

## 1. 入館者数



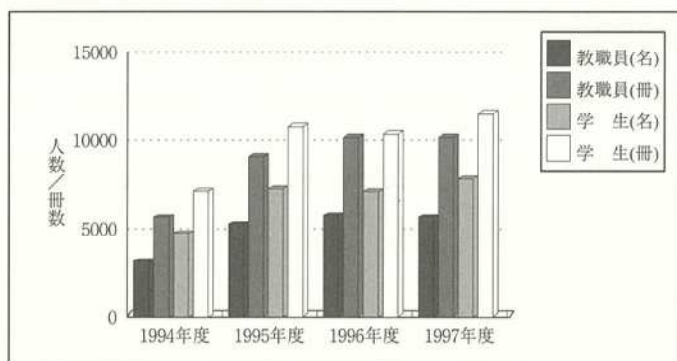
	教職員	学生	その他	合計	1日平均
1994年度	20470	49817	597	70884	440
1995年度	41468	98086	2421	141975	486
1996年度	44001	108530	2220	154751	541
1997年度	44672	116922	3224	164818	564

(1994年度は、9月5日から翌3月31日まで)

1997年度の入館者数は、1996年度に比べ全体で6%の増加です。

教職員では1%の、学生では7%の増加となっています。

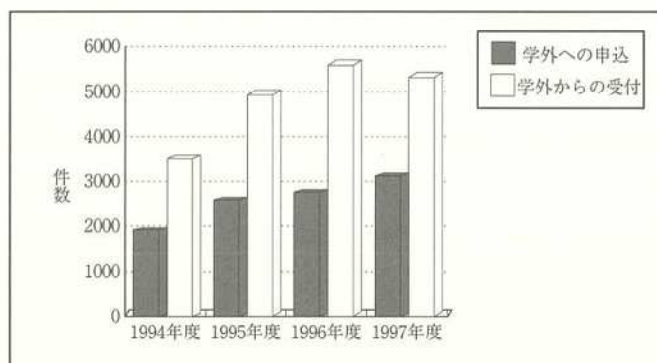
## 2. 貸出



	教職員(名)	教職員(冊)	学生(名)	学生(冊)
1994年度	3212	5675	4779	7112
1995年度	5300	9055	7240	10735
1996年度	5777	10136	7088	10327
1997年度	5686	10141	7807	11474

1997年度は、教職員で貸出者数が2%の減少、冊数はほぼ前年度と同じだが、学生では貸出者数、冊数ともに10%の増加となっています。

## 3. 相互貸借



	学外への申込	学外からの受付
1994年度	1919	3505
1995年度	2586	4932
1996年度	2760	5583
1997年度	3122	5319

相互貸借では、学外への申込が35%、7%、13%と毎年増加している。

学外からの受付は、40%、13%と増加してきたが、昨年度は5%の減少となった。

# 図書館業務電算化システムの新規更新について

現在の図書館業務電算化システムは、平成10年8月末でホスト部分のリース契約が切れます。そのため図書館としては、新しい時代に対応した新システムを導入する予定です。

以下に新システムの概要を説明いたします。

## 1. 新システムの特徴

- 1) 図書館専用機からオープンシステムに切り換える。
- 2) オープンシステムを採用する事により、文部省学術情報システムの新システムに対応可能である。
- 3) 現行システムは、いわゆる2000年問題に対応したシステムでないため、新システムを採用する事により、その問題を解決できる。
- 4) 学内LANやインターネットを利用して、各研究室から、何時でも、誰でも図書館の所蔵データが検索可能となる。
- 5) 現在の電算機維持費の範囲内で、現行システムより遥に高度な機能強化が図れる機器構成である。
- 6) 学内LANやインターネットを経由することにより、全国の大学図書館および外国の図書館とのネットワークが可能になる。また、本学関連病院とのネットワークが可能となり、図書館の医学、医療、看護情報の提供により、地域の医療情報サービスに貢献できる。

## 2. 新システム名

LibVision ver.2 (IBM社)

## 3. 機器構成図

機器構成図は、図1のとおりです。

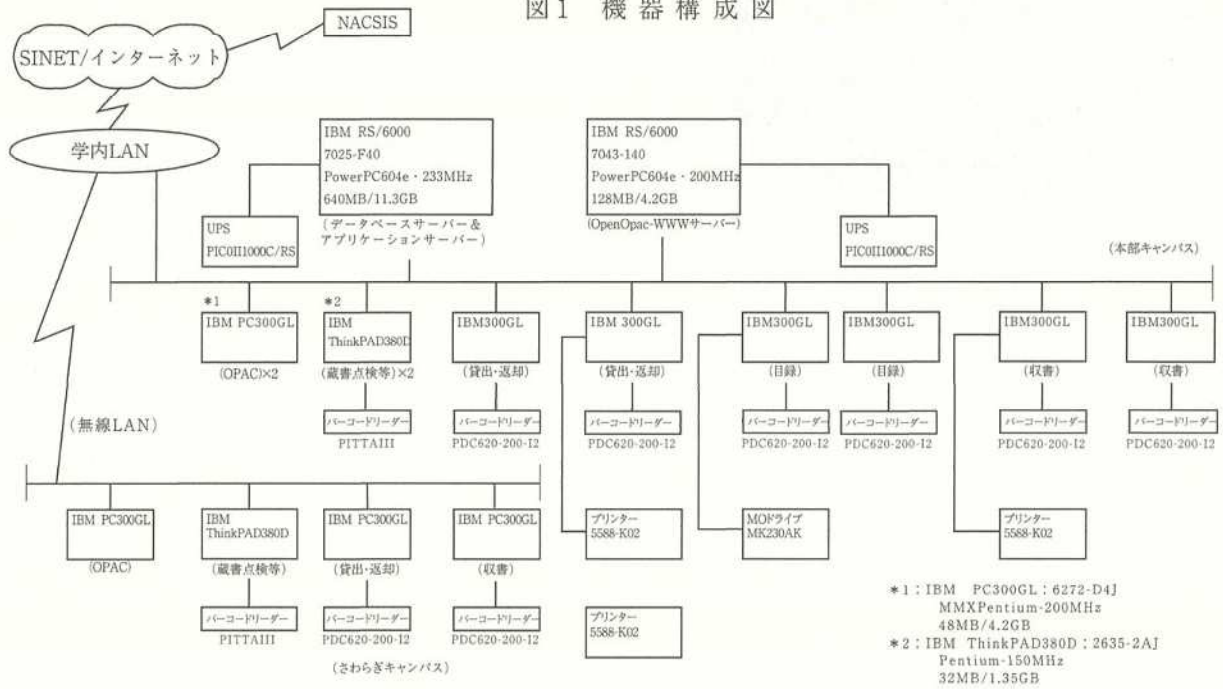
## 4. 導入スケジュール

導入スケジュールは次のとおりです。

- 1) ホスト機器および一部端末機の導入  
1998年7月
- 2) 導入テスト開始  
1998年8月
- 3) データ移行打合せおよび作業等  
1998年4月から1999年8月
- 4) 新システム機器搬入およびシステム本稼動  
1999年9月



図1 機器構成図



## 他大学図書館訪問記(4)

## 大阪市立大学学術情報総合センター-医学部分館の巻

大阪市立大学学術情報総合センター医学部分館は、大阪市阿倍野区の大阪市立大学医学部キャンパスにあります。JR、近鉄および地下鉄天王寺駅から、西へ徒歩約10分の所です。

施設は、あべのメディックス9階および8階と基礎図書館棟から成っています。

あべのメディックス9階は、メインカウンター、レファレンスカウンター、OPAC・CD-ROMコーナー、新着雑誌コーナー、単行書コーナー、1991年以降の洋雑誌・和雑誌コーナー、複写コーナーとなっています。

その他、図書館事務室、学生用閲覧個室7室、分館長室、休憩コーナー等があります。

あべのメディックス8階は、カウンター、1981年から1990年の雑誌を和洋別に配架した利用書庫、OPAC・CD-ROMコーナー、AVブース、複写コーナーとなっています。

その他、グループ学習室2室、グループ視聴室、研究者用研究個室11室、休憩コーナー等があります。

基礎図書館棟は、4階建ての2階から4階までを使用して1980年以前の洋雑誌・和雑誌・単行書が配架されています。

入館に際しては、利用者カードが必要で、磁気読取式の自動開閉ゲートが設置されています。このカードは、貸出の際は、裏面に印字されたバーコードを読み取る方法で、図書館で発行されています。

各OPAC・CD-ROMコーナーには、8台の端末が設置され、訪問時にも多くの利用者が使用中でした。主なデータベースとしては、キャンパスLAN対応のMEDLINE・Current Contents等7種、医学部LAN対応の医学中央雑誌があり、医学中央雑誌は、学内LANでの提供を準備中とのことでした。



メインカウンター (9F)



閲覧室（9F）

館内は、窓からの眺望もよく、低書架を配置してあるため圧迫感がなく、また窓に面して設置された1人用の閲覧机もあり、ゆったりと利用できる環境となっています。

複写コーナーには、3から4台のコピー機が設置され、公用カード・プリペイドカード・現金での利用が可能となっており、本学でもコピー機の増設が必要ではないかと思ひます。

本年4月より看護短期大学部の分室も開設され、少数精鋭でサービスにあたっておられます。

また、医学部のみならず、大阪市関係の病院等医療機関に対しても、幅広く利用サービスを拡大し、本館との連携でLAN対応のインテリジェント化された情報の発信基地として、今後ますます重要な役割を担っていかれることと思ひます。

本学においても、次期図書館システム導入に際し、ネットワークへの対応を充実させていくことが求められると思ひます。

（福広）

## 書 評

### 「小児の腹腔鏡下手術」

藤本隆夫 著 宮野 武 監修

診断と治療社 1997年

谷 川 允 彦



成人外科領域における腹腔鏡下手術は我々の科でも早くから取り入れて、胆嚢摘出術の殆どはこれを用いる一方、胃の局所あるいは部分切除術、脾摘出術、小腸切除術、大腸切除術などにも症例を選んで行っている現状にある。腹腔鏡下手術の第一回目は1986年に行われた胆嚢摘出術であるが、その後本邦も含めて爆発的に症例数が増加して、世界的な普及を見ている。それに対して小児外科領域での最初の腹腔鏡下手術の成功例が報告されたのは成人に遅れること5年の1991年であった。本邦では1992年2月に肥厚性幽門狭窄症に著者らが行ったのが最初の小児例となった。その後、経験症例数の増加とともに小児腹腔鏡下手術の進歩は欧米・本邦ともにめざましいものがあり、その適応が年長児のみにとどまらず

新生児・乳児期の手術まで適応が拡大されてきた。しかしながら、数の限られた小児腹部外科疾患に対して余りに急速に多施設が本方法を取り入れ、十分な準備をしないままに導入されたためにさまざまな合併症が報告されているのも事実である。成人に比べて対象が小さいことも含めて腹腔鏡下手術を行うには成人例に対する以上の十分な訓練と準備が必要である。しかし、本来発生頻度が限られている小児腹部外科疾患に対する知識の啓蒙と訓練はこの領域の医療が抱える問題の一つである。従来は開腹手術を受けて術後数日はベッドの上にあった肥厚性幽門狭窄症とか食道裂孔ヘルニアとか小児胆石症やその他の腹部疾患が翌日には退院可能になったり、廊下を飛び跳ねているな

ど小児腹腔鏡下手術を積極的に行っている施設で散見される状況は将来を含めてさらに広く普及し、そしてより多くの疾患に対して行われるようになることを予想させている。こうした状況の中で順天堂大学小児外科助教授藤本隆夫博士は300例を越える腹腔鏡下手術の臨床経験を踏まえて「小児の腹腔鏡下手術」と題する本を著している。本書は歴史的考察から始まり、手術機器や腹腔鏡下手術基本手技の解説が懇切丁寧になされた上に、各論として急性虫垂炎、肥厚性幽門狭窄症、胃一食道逆流に対するNissen噴門形成術、Hirschsprung病に対するPull-Through Technique、腎臓摘出術、脾臓摘出術、胆嚢摘出術、付属器切除・卵巣切除、停留睪丸など小児外科で取り扱う多くの疾患の治療がこうすれば腹腔鏡下手術で行うことができるというふうに項目ごとに極めて具体的に分かり易く解説されている。所々に配置され、理解を助けてくれる小児の可愛い絵も読み進んでゆく者の気持ちを和ませてくれる。外科内科の分野を問わず、小児疾患を扱う若手医師に一読を進めたい良書としてここに推薦する。

(たにがわ・のぶひこ 一般・消化器外科教授)

## 学術情報センター平成10年度の動向 ：NACSIS説明会出張報告

宮本高行

学術情報センター（NACSIS）から、平成10年度以降に予定されている、新CAT（新・目録所在情報サービス）、ILL（図書館間貸借サービス）、およびNACSIS-ELS（電子図書館サービス）の各サービスの概要説明が、関西地区においては平成10年2月18日に京都大学を会場としてありました。

新CATにおいては、現在専用回線で行なっている共同目録作業を、順次インターネット利用によるオープンシステムに切替え、平成16年1月には全て新CATシステムによるサービスを予定している。また、新システムに対応した図書館システムの開発事例が京都大学附属図書館の担当者等から報告されました。

ILLにおいては、文献画像伝送システムの導入があげられた。このシステムは文献をスキャナで読み込み画像データ化し、圧縮した後インターネット経由で転送し、受信した圧縮データを画像データに戻しプリンタから出力するもので、従来のコピー郵送やFAXに比べ、画像が高品質、転送時間が短縮で転送経費が無料、画像データとしての再利用が可能といった利点があげられます。今後の課題としては圧縮や転送のフォーマットの統一を計ることや、著作権への配慮の問題が残っています。

ELSシステムは、平成9年度より無料試行が行なわれていたが、平成10年度よりは、料金課金が行なわれることが決定しているが詳細についてはこの説明会の時点では未定でした。また収載誌には日本脳神経外科学会のNeurologia medico-chirurgica誌等、医学系では5団体の機関誌が含まれる予定です。

ELSシステム参加学会は平成10年4月時点で、医学部門では日本脳神経外科学会、日本平滑筋学会、日本産科婦人科学会、日本放射線技術学会、日本消化器癌発生学会、日本消化器外科学会、大

阪歯学会、日本トキシコロジー学会の8学会が収録または収録を予定し、理学部門では日本生物物理学会等が収録を予定しています。

このシステムを利用するには、指定されたワークステーションタイプのコンピュータに専用クライアント・ソフトウェアを入れるか、パーソナルコンピュータではWindows95機もしくはNTおよびMacOS搭載機に、Webブラウザソフトと共に専用プラグイン・ソフトウェアとを組み合わせることにより使用できます。接続についての詳しい説明や収録誌の動向については、NACSIS-ELSのWebページ<http://www.nacsis.ac.jp/els/els-j.html>を参照して下さい。

図書館における対応について。

新CATシステムに対しては、図書館の電算システム契約更新時に、対応でき得るシステムへの改変を計画しています。

ILLの文献画像伝送システムについては、対応機器開発元の一つであるミノルタ社からも、すでに同様のシステムが発表されている。今後の各社のシステム間の統一や、システム全体の安定が待たれるところであります。

ELSについては、従来行なっている相互貸借制度による文献複写物入手と同様に、文献情報入手の一手段として、図書館でのサービスに活用できそうに思えます。

(みやもと・たかゆき 目録係)

平成10年度図書館合同運営委員会委員 (平成10年4月1日現在)

図書館長 清金 公裕 (皮膚科学) / 基礎系 芝山 雄老 (第一病理学) / 窪田 隆裕 (第二生理学) / 社会系 鈴木 廣一 (法医学) / 臨床系 植木 實 (産婦人科)、陰山 克 (第二内科学)、田中 英高 (小児科学)、長沢 史朗 (脳神経外科学) / 学生部 大槻 勝紀 (第一解剖学)、玉井 浩 (小児科学)、さわらぎキャンパス 西村 保一郎 (数学) / 看護専門学校 城戸 滝枝、高山 妙子 / 図書館 茂幾 周治、崔 照子、松本 玲子

本学教職員等著作寄贈

故大槻 龍馬 (顧問) 百人の無罪 / 大槻龍馬 編著 1992  
十五人の無罪 / 大槻龍馬 編著 1984  
十人の無罪 / 大槻龍馬 編著 1977  
勝 健一 (第二内科学) 医薬品相互作用の手引き / 勝健一監修 1998  
一般用医薬品 薬効 (群) 別成分一覧 1998

## 平成 9 年度 図書館 統計

平成 9 年度 年間受入図書および製本冊数

	購入図書		製本雑誌		寄贈図書		計		合計
	和	洋	和	洋	和	洋	和	洋	
図書館	978	325	876	2653	514	28	2368	3006	5374
教育図書	26	7	0	0	0	0	26	7	33
研究費	348	139	0	0	0	0	348	139	487
計①	1352	471	876	2653	514	28	2742	3152	5894
さわらぎ分室	414	4	47	243	40	11	501	258	759
研究費	89	321	0	2	0	0	89	323	412
計②	503	325	47	245	40	11	590	581	1171
合計①+②	1855	796	923	2898	554	39	3332	3733	7065

受入カレント数

	購 入		寄 贈		計		合計
	和	洋	和	洋	和	洋	
図書館	343	742	707	47	1050	789	1839
研究費	17	22	0	0	17	22	39
計①	360	764	707	47	1067	811	1878
さわらぎ分室	37	72	5	0	42	72	114
研究費	2	11	0	0	2	11	13
計②	39	83	5	0	44	83	127
合計①+②	399	847	712	47	1111	894	2005

平成10年 3月31日 (現在)

図書館蔵書数

	図 書			雑誌(所蔵タイトル数)		
	国内	外国	計	国内	外国	計
さわらぎ分室	28,749	25,473	54,222	200	130	330
専 門	62,884	71,613	134,497	2,434	1,601	4,035
合 計	91,633	97,086	188,719	2,634	1,731	4,365

# お知らせ



## 1. 図書館カードについて

現在お持ちの図書館カードで、以下の方のカードは1998年3月末で有効期限が切れていますのでお知らせいたします。

- ・1994年度中にカードを作成された、専攻医、研究生、副手等の方（有効期限4年）
- ・研究補助員で、カード作成後3年が経過した方（有効期限3年）
- ・学部2年生（3年生からカードが新しくなります）
- ・学部、看護専門学校の卒業生

本学に残られる方以外でも、卒業生としてカードを作成しますので申請してください。

- ・実習生等（有効期限1年）

なお、有効期限の計算は、年度単位（4月から翌年3月）となっております。年度途中で作成した場合、3月31日までで1年分となります。

該当する方は、利用登録申請書を提出してください。用紙は図書館にあります。

ご質問は、図書館カウンター（内線2799）まで。

## 2. グループ学習室および研究個室の利用について

### 2-1. グループ学習室

グループ学習室は、1週間前から予約を受け付けています。

利用希望日の1週間前が休日等で閉館の場合は、翌開館日より予約を受け付けます。

予約された日時に、連絡なしで30分以上遅れられた場合は、予約をキャンセルされたものとみなす場合がありますので、ご注意ください。

### 2-2. 研究個室

研究個室は、大学院生以上の研究者の方が利用できます。

予約は、1ヵ月前から受け付けています。

予約は、電話では受け付けておりませんので、図書館カウンターまで直接お越しください。

## 3. 看護専門学校図書室

新規受入れ雑誌

母性衛生 39(1998) +

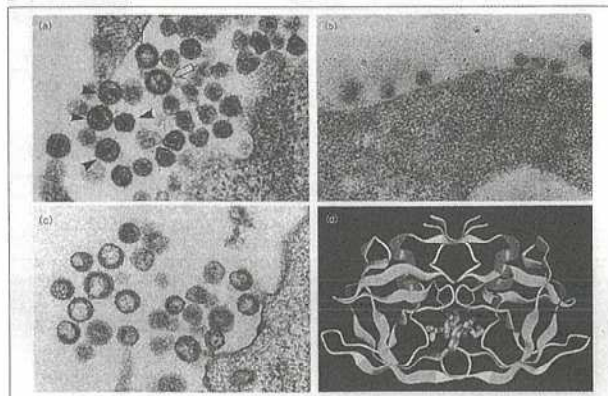
日本在宅ケア学会誌 1(1998) +

## 4. 「蛋白質 核酸 酵素」5月号の表紙に写真が掲載される

「蛋白質 核酸 酵素」5月号の表紙に本学微生物学教室が提供した、HIVとプロテアーゼの写真が掲載されました。表紙の解説は、同号の819ページに載っています。一度お読みください。

今月の表紙

HIV粒子とプロテアーゼ



## 図書館業務日誌

- 1月  
14日（水）日本医学図書館協会総務会（於、協会中央事務局）  
20日（火）UMI社ProquestDirectデモ（於、図書館会議室）  
29日（木）平成9年度第7回図書館合同運営委員会（於、図書館会議室）
- 2月  
6日（火）医学図書館員基礎研修会第1回実行委員会（於、滋賀医科大学）  
9日（月）第3回図書館長選挙管理委員会（於、図書館会議室）  
13日（金）日本医学図書館協会企画・調査委員会（於、本学図書館）  
18日（水）図書館長選挙公示  
学術情報センター新CAT/ILL説明会に館員参加（於、京大薬学部）  
19日（木）日本医学図書館協会理事会（於、東邦大学医学部）
- 3月  
4日（水）－5日（木）図書館長選挙投票日  
9日（月）医学図書館員基礎研修会第2回実行委員会（於、本学図書館）  
11日（水）日本医学図書館協会総務会（於、協会中央事務局）
- 13日（金）近畿地区医学図書館協議会例会（於、大阪歯科大学）  
19日（木）平成9年度第8回図書館合同運営委員会（於、図書館会議室）  
20日（金）次期図書館システム打合せ会（於、図書館会議室）
- 4月  
2日（木）新入職員オリエンテーション（於、講義実習棟）  
8日（水）新入生オリエンテーション（於、さわらぎキャンパス）  
10日（金）看護専門学校新入生オリエンテーション（於、看護専門学校大研修室）  
17日（金）医学図書館員基礎研修会第3回実行委員会（於、滋賀医科大学）  
20日（木）日本医学図書館協会理事会、評議員会（於、東邦大学医学部）  
21日（金）次期図書館システム打合せ会（於、図書館会議室）  
23日（木）平成10年度第1回図書館合同運営委員会（於、図書館会議室）  
24日（金）日本医学図書館協会企画・調査委員会（於、奈良医科大学）

## 編 集 後 記

今回のトップ記事は、清金公裕教授が図書館長に再選されましたので、再任にあたっての挨拶文をお願いしました。また、若手教員からの記事として、末吉、西村両先生に執筆していただきました。その他沢山の方からの原稿を頂き、有り難うございました。

また、今回は、新年度号となりますので、新図書館運営委員、図書館利用統計等の記事も掲載いたしました。表紙のカットは恒例により、北村達郎氏にお願いしました。記事の内容について、読者からのご意見をどしどしお寄せください。（茂幾）

OMNIBUS「大阪医科大学図書館報／大阪医科大学附属看護専門学校図書室報」

No.11 1998年6月5日 発行

編集・発行 大阪医科大学図書館

〒569 大阪府高槻市大学町2-7

TEL (0726) 83-1221 (代)

(内線2799, 2621)

印刷 大日本印刷株式会社